



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第4号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第4号). 泌尿器科紀要 1961, 7(4): 568-568

ISSUE DATE:

1961-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112117>

RIGHT:

## 編集後記

昨年以來の 日赤を中心とする病院ストと 日医を中心とする医療費運動との間には 勿論関係はあるが 必ずしも同じ性質のものではない。前者には従業員の待遇改善要求の他に 種々のねらいがあろうし 後者は単価値上げが核心をなしていたようである。一方が妥結すれば他方も妥結するようなものではない。医療費は自民党三役と日医との間で一応解決したが これには厚生省も大学も病院協会も関与していない。病院ストは 誰と 誰とが対立しているのかよく判らない。最近には学会会議と厚生大臣との間で話し合いが行われた。これには自民党も日医も参加しておらず 議題は医療制度改革が主になつていて 医療従事者の待遇改善とか 医療費の問題等は何ら触れられていない。これらの事から考えても 現在日本の医療制度がいかに混乱しているかが判る。その他にも問題は無数にある。一般大衆は医療の実態を知らずに 医師に仁術を押しつける。マスコミも大衆の意見に同調している。各種の医療機関が乱立し 会社は医者を雇つて勝手な規約で医療を行つている。公的医療機関と私的のそれとの関係や 勤務医と開業医との仕事や経済生活はどのようにあるべきかと云う事も大きな問題である。公的医療機関に於て医者が役人や事務員に牛耳られるとか 会社病院にて事業主に医者が圧迫されるとか 病院にて労組に医者が首をしめられるとか 開業医が厚生省に支配せられるとか そのような事実が明らかに見られるが これも重大な事柄である。

上述のように 種々の立場にある人が 互に連絡なしに 勝手に主張し 行動している。こんな事で わが国の医療問題が解決出来るであろうか。意見の異なる人が話し合い 一定の結論に達すると云う事は なかなか難事であろうが そうでなければ解決しないであろう。真相を直視し 異つた意見をも大きく抱括した構想が必要であろう。とに角わが国の医療制度はいかにあるべきかの未来図を 大所高所に立つて作らねばならぬ(昭和36年4月)



長崎医大に泌尿器科講座が新設せられ初代教授として近藤厚博士が岐阜大学より就任せられた。信州大学皮泌尿科教授として東大から柿崎勉博士が就任せられた。共に慶賀。



### 購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名: 誌名、巻数: 頁数、年次。  
例. 中野: 泌尿紀要, 1: 110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45: 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。